

1 教科について

国 語

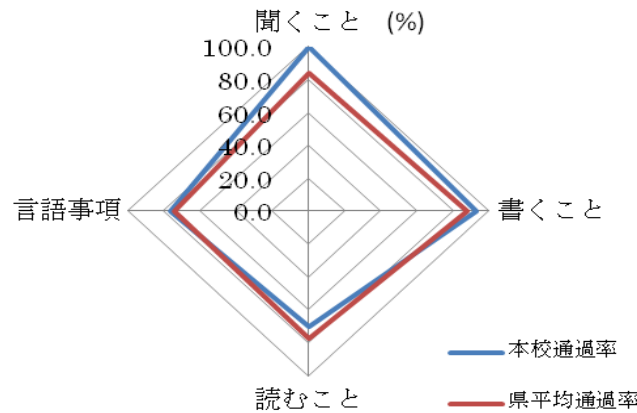
昨年度の課題

- ① 大まかな内容は聞き取れているが、要点が聞き取れていない。聞いていてその内容を理解する力の差が大きい。
- ② ローマ字は読めるが、正しく書けない。
- ③ 説明文の言葉の選択, 物語文での登場人物の関係の把握, 文の構成の理解が弱い。

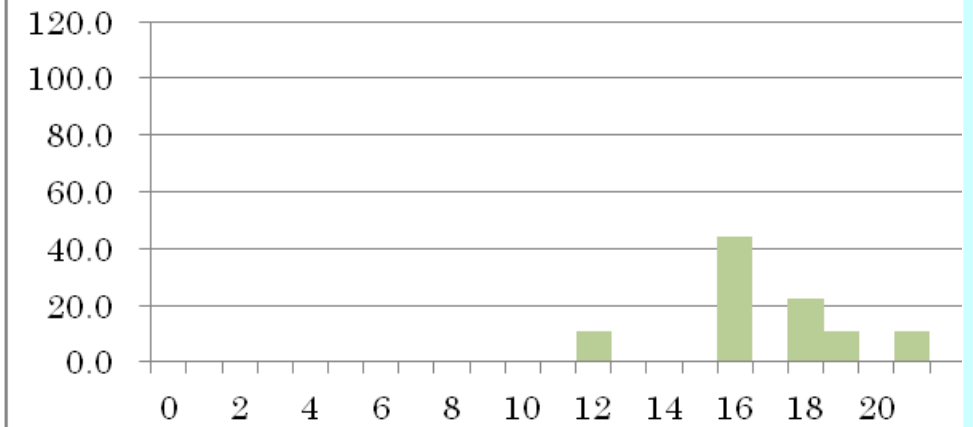
昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ① 全校朝会の内容について感想や気づきなどを発表させた。
- ② ローマ字を書く活動を取り入れたり, ローマ字の読み書きの小テストを継続したりした。
- ③ 物語における登場人物をカードに書き出し, それらを使って, 実体的な関係や構造的な関係を捉えさせたりするなどの授業の工夫を行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 84.9% 県平均 78.5%



通過設問数ごとの児童割合 (国語)



重点課題 ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ ローマ字の読み書きが, 十分定着していない。
- ◎ 場面の移り変わりや情景の想像することが不十分である。
- ◎ 大筋は読み取れているが, 段落相互の関係を正しく把握できず, 深く読み取ることができない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① ローマ字を繰り返し練習させたり, 宿題にして少しずつ練習させたりする。また, パソコンを使う授業では, ローマ字入力の手順を指導する。
- ② 物語全体の大まかな展開をとらえさせた上で, 登場人物の性格, 会話, 他の人物との関係や情景描写等, 根拠となる表現を基に気持ちを想像させる。また, 言葉に注目させ, 特に大事な言葉 (中心となる言葉, 説明文では順序を表す言葉, 物語文では時を表す言葉など) に線を引いたり, 書き出したりさせながら読み取らせる。場面の移り変わりを把握させるためや大事な言葉や文章を選択させるために紙芝居をつくらせる。
- ③ 段落の構成を図を用いて説明させる。また, 教材の文章全体の展開をまねて説明文を書かせる。

来年度の目標値

- 通過率80%以上の児童の割合を85%にする。

指導方法等の改善計画について

算 数

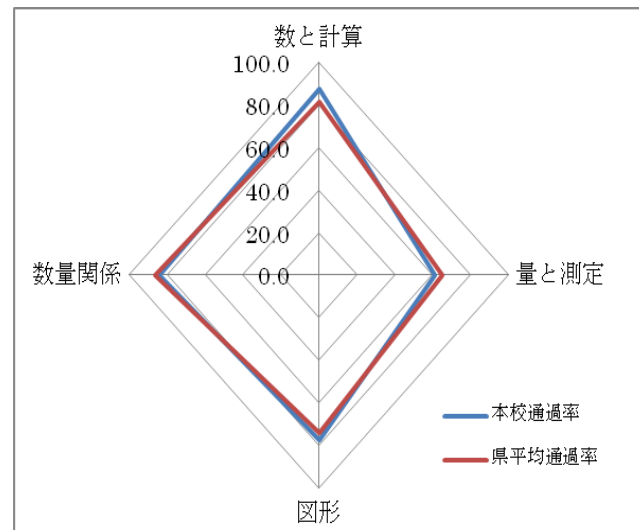
昨年度の課題

- ① 複雑な四則計算ができていない。
- ② 量感が不足している。
- ③ 伴って変わる数量が理解できていないため、数量関係を式で表すことができない。
- ④ 数学的な考え方の力がついていない。

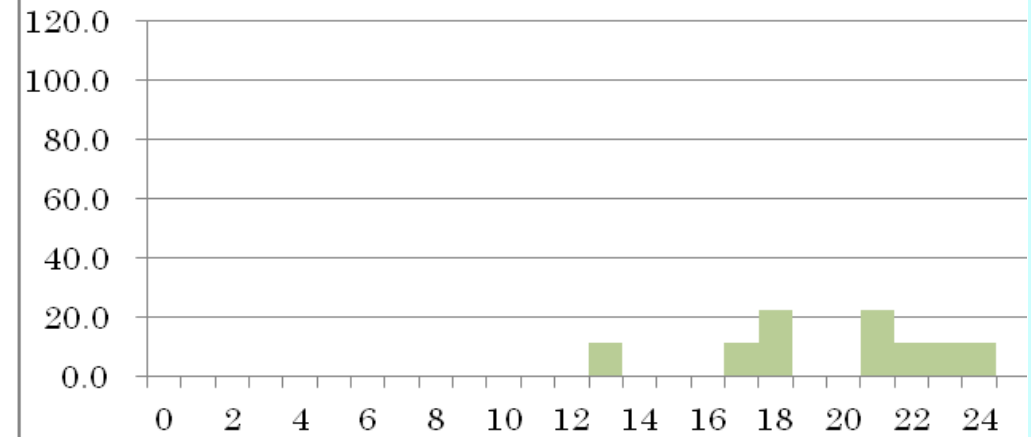
昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

- ① 複雑な四則計算や既習事項を通常の授業やステップ（少人数指導）で繰り返した。
- ② 生活の中で、既習事項を使ったり算数的活動を取り入れたりして、その数式の便利さや量感に気づかせる。
- ③ なぜこう考えたのか根拠を明確にしたり思考をさせたり、まとめさせたりするような課題づくりや時間を保障した。
- ④ ペアトークを取り入れたり、工夫した板書したりして、自分の考えを持たせたり、自信をもって発表したりできるようにした。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **77.6%** 県平均 **77.8%**



通過設問数ごとの児童割合（算数）



重点課題 ◎：「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ 量感が不足している。
- ◎ 複合図形の場合、問題で分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求めることができないため、面積を求めることができない。
- ◎ 図形の定義が理解できていない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

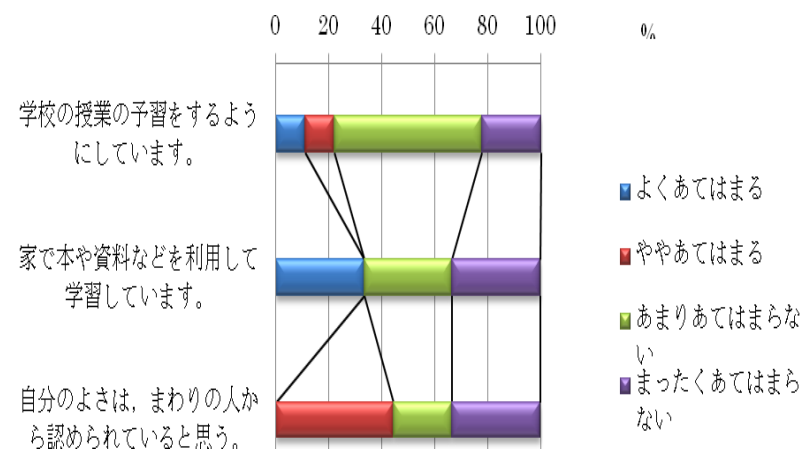
- ① 物の量（大きさも含む）を測定するための基本的な単位の実感できるようにするために、その量を予想し、自らの予想を根拠に基づいて説明したり、実測して比較したりする。
- ② 図形の定義や性質を特徴的な形の図形だけを教えるだけでなく、算数的操作を通して少し変形させた形も学習させる。表などにして整理してまとめて把握しやすくする。定義と言葉の意味が図形の上で理解できるよう紙や竹ひご、ストローなどで操作させる。図形の定義を基に作図をさせたり、性質を説明させたりする。
- ③ 他教科において、図形を扱う場面では、図形の定義や性質に触れる場を設けたり、生活の中にある図形に目を向けさせる働きを行ったりする。

来年度の目標値

○通過率70%以上の児童の割合を85%にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

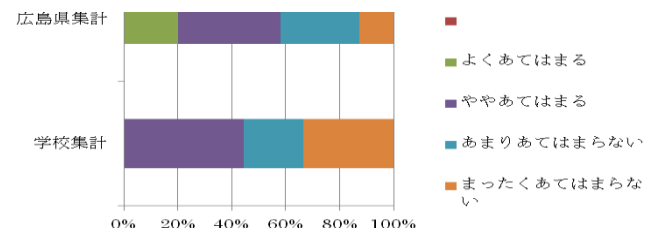


改善したい点（◎「基礎・基本」）	今後の具体的な取組の内容
◎ 75%以上の児童は、学習の予習をする習慣ができていない。 ◎ 65%以上の児童は、家で本や資料などを利用して学習していない。 ◎ 55%以上の児童が、自分のよさは、まわりの人から認められていると思っていない。 ◎ 休日にテレビを見たりゲームを見たりする時間が1日2時間以上の児童は55%以上で、学習時間が1時間より少ない児童が約90%である。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の仕方を見直し、本や資料などを利用するような学習を取り入れたり、学力向上につながるよう予習をする習慣を身につけさせたりする。 体験活動や自己肯定感を高める「きりりカード」を生かして、自己肯定感をもてるように評価していく。 家庭学習の仕方を含め、児童に休日の過ごし方を考えさせたり、懇談などで保護者にも協力をお願いしたりする。

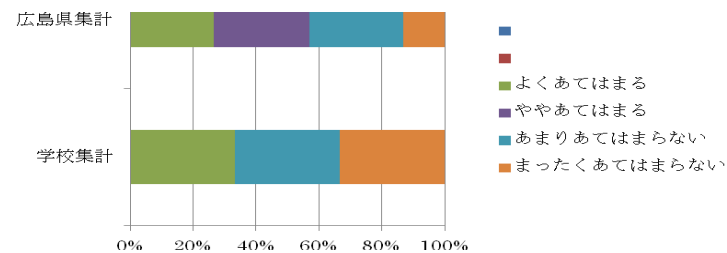
来年度の目標値	目標値
	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさは、まわりの人から認められていると思っている児童が80%以上にする。 休日（土曜日・日曜日・祝日など）、テレビを見たりゲームをしったりする時間が1日2時間より少ない児童を60%以上にする。

(2) 教科

家で本や資料などを利用して学習しています。



自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。



	児童の回答と学校の指導についての課題（◎「基礎・基本」）	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 漢字などの繰り返しの学習をするのが好きな児童は、約30%である。 ◎ 分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べる児童は、約45%である。 ◎ 場面の様子や人物の気持ちを表す言葉に線を引いたり、感じたことを書き込んだりしながら、物語などの文章を読んでいる児童は、約30%である。 	<ul style="list-style-type: none"> くり返し学習の大切さについて実感できるように一人一人の伸びが分かるような工夫をし、漢字やローマ字などのくり返し学習に対して意欲をもたせる。 分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べる習慣が身につくように日々の授業で取り組む時間をもち指導していく。 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 算数の授業を楽しみにしている児童は、半数以下である。 ◎ 分かっていることや求めることが何かを考えながら問題を解いている児童は、約65%である。 ◎ 理由をあげて自分の考え方やとき方を説明している児童は、約65%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かっていることや求めることに線や印をつけるなどの習慣を身につけさせ、考える筋道を見つけやすくする。 ノート指導を中心に自分が考える時間を保障し、図や線分図、言葉などで考えを説明できるように指導する。 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用する。

来年度の目標値	目標値
	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や人物の気持ちを表す言葉に線を引いたり、感じたことを書き込んだりしながら、物語などの文章を読んでいる児童が60%以上にする。 算数の授業を楽しみにしている児童が70%以上にする。

指導改善のための実施スケジュール

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
	Plan		Do			Check	検証	Action	Check	
	結果の分析・H22の改善計画の見直し H23の改善計画の実施						次年度の計画			
【教科】										
国語	ローマ字を繰り返し練習させたり、パソコンでローマ字入力の指導をしたりする。									
	場面の移り変わりや情景などを想像しやすくする授業の工夫をする。									
	段落相互の関係を正しく把握し深く読み取るための授業の工夫をする。									
算数	基本的な単位の実感できるように算数的操作を行わせたり、生活の中でも活用させたりする。									
	図形の定義を基に作図をさせたり、性質を説明させたりする。									
	他教科や生活の中で学習したことを使わせる。									
【生活・学習】	家庭学習の仕方を含め、児童に休日の過ごし方を考えさせたり、懇談などで保護者にも協力をお願いしたりする。									
	正しく読み取るために、言葉に線を引いたり、感じたことを書き込んだりする活動を国語の授業に取り入れる。									
	ノート指導を中心に自分が考える時間を保障する。									